

○普及に移す技術

[タイトル] 大豆カメムシ類の効果的な薬剤防除法

[要約] 莢伸長期にスミチオン剤、子実肥大期にトレボン剤で防除することにより、カメムシ類による被害を抑制できる。さらに、その1週間後にダントツ剤あるいはキラップ剤で追加防除することにより、多発条件でも被害を抑制できる。

[キーワード] ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、防除適期、有効薬剤、追加防除

[担当場所・課] 農林水産総合技術センター・農業研究所・病理昆虫課

[連絡先] 電話 076-429-5249

[背景・ねらい]

富山県における、大豆カメムシ類の主要種はホソヘリカメムシとイチモンジカメムシ(図1)で、子実吸汁害により収量・品質を低下させるばかりか、青立ちの主要因にもなることがある。これらカメムシ類のフェロモントラップ(図1)を用いた発生消長の調査から、防除適期は8月中旬の成虫侵入盛期(莢伸長期)とその2週間後の孵化幼虫の発生期(子実肥大期)と推定される(図2、平成28年度成果情報)。そこで、その発生消長に基づいた効果的な薬剤防除法を開発する。

[成果の内容・特徴]

- 1 防除適期と推定された、莢伸長期と子実肥大期(図2)の2回防除は、各1回防除よりも安定した効果が得られる(図3)。
- 2 莢伸長期のスミチオン剤、子実肥大期のトレボン剤の2回防除は高い防除効果を示すが、その1週間後にダントツ剤あるいはキラップ剤で追加防除することにより、多発条件でも被害を抑制できる(図4、5)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 カメムシ類の発生リスクの高い地域(山際や周辺に雑草群落が多い地域)では、必要に応じて追加の防除を実施する。
- 2 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤を連用しない。
- 3 本成果は「エンレイ」および「シュウレイ」で適用される。

[具体的データ]



図1 ホソヘリカメムシ（左）、イチモンジカメムシ（中）、フェロモントラップ（右）



図2 大豆カメムシ類の防除適期と生育ステージ

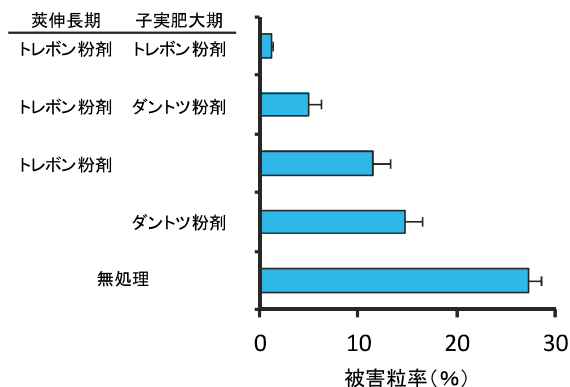


図3 大豆カメムシ類に対する薬剤の防除効果(2014年)

品 種：シュウレイ、カメムシ類発生状況：多い

防除日：莢伸長期（8月12日）、子実肥大期（8月28日）

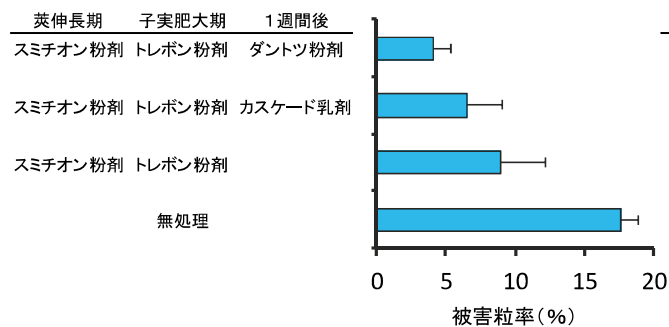


図4 大豆カメムシ類に対する薬剤の防除効果(2016年)

品 種：シュウレイ、カメムシ類発生状況：多い

防除日：莢伸長期（8月16日）、子実肥大期（8月31日）

子実肥大期から約1週間後（9月6日）

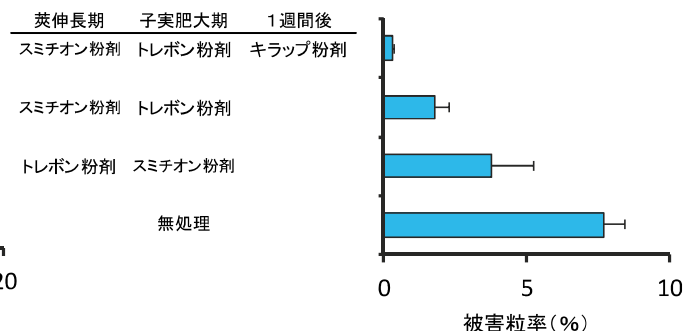


図5 大豆カメムシ類に対する薬剤の防除効果(2017年)

品 種：シュウレイ、カメムシ類発生状況：やや少ない

防除日：莢伸長期（8月14日）、子実肥大期（8月29日）

子実肥大期から約1週間後（9月4日）

[その他]

研究課題名：合成フェロモンを利用した大豆カメムシ類の発生予察技術の開発

予 算 区 分：県単（病害虫発生予察および防除対策試験）

研 究 期 間：2017年度（2013～2017年度）

研究担当者：青山政義、西島裕恵（農業技術課）

発表論文等：第58回および第59回日本応用動物昆虫学会口頭発表